

# 令和2年度 事業報告

社会福祉法人 慈敬会

特別養護老人ホーム ヒューマン・ケアこうしの杜

## 1. 職員数、職員採用状況

令和3年3月31日付：職員数 39名（前年同月数+3名）

（正職員 30名、パート職員 9名 ※前年同月：正職員 27名、パート他職員 8名）

・男性 15名 女性 24名 ・合志市在住者 19名

<R2年4月1日～令和3年3月31日付>

・退職者 5名（入所介護 2名、通所 1名 調理他 3名）

・入職者 8名（入所介護 4名、看護 1名、調理他 3名）

・たかばの社に移動 1名（看護）

### <入所事業>

配置基準の職種（人数）	人数 （兼務）	有資格（前年数）
施設長：1	1	社会福祉士 1名（1）
看護師：1	4	看護師（准） 4名（1）
介護職：10	15	介護福祉士 17名（13）
理学療法士	1	介護支援専門員 6名（6）
生活相談員：1	1	社会福祉主事 2名（2）
介護支援専門員：兼務可	1	管理栄養士 2名（2）
管理栄養士：1	1	調理士 2名（2）
事務職	3	理学療法士 1名（1）
調理員	4	ユニットリーダー研修受講者 3名（3）
清掃	2	認知症介護実践リーダー研修修了者 5名（5）
委託医（非常勤）	（1）	認知症ケア専門士 4名（4）
計	33名	介護職員基礎研修修了者 6名（6）

### <通所事業>

配置基準の職種（人数）	人数（兼務）	有資格、上記にまとめる 人員基準：看護・介護合わせて算定
管理者・生活相談員（1）	1	
看護職（兼務可）	1	
介護職（2）	1（1）	
計	4名	

\*通所事業の報告 P.7

### <居宅支援事業>

配置基準の職種（人数）	人数（兼務）	有資格、上記にまとめる
管理者・介護支援専門員	1	
計	1	

#### 入職、退職者状況の詳細

令和3年3月末時点で介護職15名、看護職4名と実際の入居者の方へのケアが行える人員は19名であるが、そのうち時間短縮、日勤希望や体力低下、または60歳雇用者が増え現在そのような職員が6名と、実数とは違って業務内容を考えると人員不足である。

前年度との違いは、採用後の定着が高くなっている。高年齢者のほうが定着する傾向にある。

現在の職員うち介護、看護職の平均年齢が40歳を超え、職員雇用は高齢者雇用の延長や業務簡素化や介護機器のITC導入等、今後の運営の大きな課題である。

## 2. 職員 福利厚生

- ・職員健康診断料：夜間勤務者は年2回実施（3月・9月施行）、新入職者検診
- ・インフルエンザ予防接種（10月）

### 3. 期末賞与

日々の高齢者への感染予防対策に配慮した職員への慰労策、利益還元として、令和2年12月に商品券、マスクの配布（追記：令和3年5月に職員全員に慰労金を臨時支給）

### 4. 令和2年度 施設運営と入居者へのケアの報告

主な活動 \*は、地域交流内容

年月	施設運営設備管理	主な行事・余暇活動 *地域交流	職員研修会（内部）
R2年 4月	新型コロナ感染予防	・桜花見外出 (外部者と接点ないように)	・認知症ケア 資料配布
5月	食中毒予防啓発活動	・居室環境整備、清掃、衣替え	・感染症について (食中毒、ノロウイルス) 資料配布
6月	防災訓練・消防設備点検	・水無月の御茶会	・腰痛、肩痛の予防について
7月		・夕涼み、花火	・高齢者の権利擁護につて ・身体拘束をしないケア
8月	こうしの杜便り発行	・納涼祭	・zoom でつながる
9月	消防点検	・敬老会・式典（ご家族参加なし）	・リスクマネジメント集計 分析 ・腰痛、肩痛の予防について
10月	インフルエンザ予防接種 評議員理事会	・コスモス花見外出 (外部者と接点ないように)	・新入職員さんとの コミュニケーション ・感染症の知識と対策 ・身体拘束廃止に向けたグ ループワーク
11月	感染症予防月間	・スポーツ大会（縮小して）	・記録や申し送りについて (記録の留意点、指導監査 で ポイントになる事項情 報)
12月	防災訓練 消防設備点検	・クリスマス・忘年会 (ご家族参加なし)	・高齢者の権利擁護 (不適切なケアについて)
R3年 1月			・リスクマネジメント集計分 析
2月		・節分、豆まき	・防災管理（資料配布）
3月 (予定)	次年度委員会計画立案 備品在庫整理 職員健康診断	・桜花見（ドライブ）	・本年度事業まとめ、報告 ・次年度委員会計画 (各委員会別)

備考	エレベーター点検 4回/月	・ユニットでの軽食づくり：一時中止 ・くつろぎ喫茶・杜カフェ 1/月：中止	

\*中止：運営推進委員会議、介護相談員訪問、各ボランティア、

## 5. 施設委員会

以下の委員会を編成し、円滑な施設運営と入居者の方へのケアの向上に努めている

- ・研修記録委員会（月1回の施設内研修内容を考える ケアの質的向上）
- ・ケア改善委員会（日々のケアや業務改善を考える）
- ・リフレッシュ委員会（日々のレクレーション・余暇活動・季節行事の充実を考える）
- ・リスクマネジメント委員会（危機管理 施設内のリスク回避や介護事故予防を考える）
- ・身体拘束適正委員会（高齢者の権利擁護を考える）

リスクマネジメント委員会との兼務

- ・保健衛生委員（衛生管理、感染症予防を考える）

R2年4月から新型コロナウイルスの情報収集を行い、そこからその都度、職員に情報提供と注意勧告を続けた。それをマニュアル化し3度改正行った。

感染予防のための備品管理補充、施設内消毒

- ・環境美化委員会（施設内美化、環境整備、エコを考える）
- ・災害防災対策委員会（施設内の防災、地域災害時の支援活動を考える）  
事業継続計画（BCP）作成
- ・広報委員（広報誌の作成、施設外への広報活動）
- ・栄養管理委員会（健康管理 栄養マネジメント 食の愉しみを考える）

各委員会は、少数人数のため会議室でお互いの距離を保ち、月1度の委員会を開催し業務を実行した。各委員会が企画する行事や研修会等は、通常に比べ縮小したり中止としたり、全国や熊本県下の感染状況や動向を留意しながらケアや業務を行った

## 6. 運営推進会議の状況

新型コロナウイルス蔓延防止のため今年度はすべて中止した。開催月には合志市高齢者支援課に開催の有無を相談し、また熊本市の感染状況をみて施設内で検討し中止とした。

## 7. 入所者へのケアの詳細

入居者の方へのケアについて

### ① 食事サービスについて

### 【給食に関する方針】

入居者様を食事づくりに参加できる機会を作って、残存機能を生かし、生きがいの場を設ける。安全・安心な料理の提供、また、地産地消をとりいれる。  
その土地の食材や郷土料理をとりいれ、家庭的で高齢者になじみのある料理を提供する。

### 【栄養量等の状況】

	エネルギー kcal	蛋白質 g	カルシウム mg	鉄分 mg	ビタミンC mg	塩 g
令和2年度の 栄養所要量	1560	51.7	514	6.2	100	7.1
令和2年度 給与栄養量	1724	61.9	673	8.7	118	9.5

(1) 利用者がくつろいで食事出来るような配慮及び対応  
なじみの人とテーブルを囲んで食べる。各自の湯のみを持参する。  
また、食器は陶器を使用して家庭的な雰囲気を作っている。

(2) 利用者の身体状態（咀嚼能力、健康状態等）に合わせた調理への配慮及び対応  
その都度栄養士に報告し、次の提供時に対応できるようにしている。  
カンファレンスにて報告、また、栄養士が食事場を巡回し、確認して対応している。

(3) 食事が適温で食べられるような配慮及び対応  
ユニットには、冷蔵庫・電子レンジ、IHコンロがあるので、  
遅れて食べる人には対応している。各ユニットにてご飯を炊いている。  
また、汁物は各ユニットで温めている。

(4) 利用者の身体状態に応じた食事のための自助具等の活用  
個人用自助具は各自持参してもらっている。  
麻痺や視覚障害がある人にはその人にあった陶器を使用している。

**【食事形態】**

令和3年3月1日現在

軟菜食	刻み食	やわらか食	極キザミ食	ミキサー食	ミキサーハーフ食	合計
5	7	0	9	2	3	26

(在籍入居者 26名)

**【食費】**

朝食：380円 昼食：500円 夕食：512円 1日：1,392円

**②ケアカンファレンス**

朝の引継ぎ後 25～15 分のカンファレンスを継続している。その内容はおひとりお一人についてのケアの方法や業務の見直し、事故の再発予防について等の検討を行いケアの統一を行っている。また、個別のケアの計画については、入居時とその後6ヶ月毎にケアプランカンファレンスを開催している。また、チームワークにおいても必要なことと認識し位置づけている。

今年度からは、お互いの距離に注意しながらカンファレンスを行っている。

**③ケアプラン・機能訓練実施状況**

ケアプランに基づき個別の機能訓練計画書を作成し実施している（加算算定はなし）。通常であれば計画書の内容は、歩行訓練や移乗動作訓練に加え、生活に即した動作の習慣や食事の下ごしらえ、食事の準備や後片付け、掃除や洗濯物の整理など入居者間の交流を行いながらの機能訓練であるが、新型コロナウイルス感染予防により、入居者の方同士の距離や接触を少なくする目的で実施プランは個人での機能訓練が主な内容となった。

ケアプラン発表については、ご家族の参加はご遠慮いただき、後に書面で報告とした。また下半期にはオンライン会議によりご家族参加のもと実施した。

**④余暇活動について**

日々の余暇活動については、個別のケアプランを基にその日のユニット担当者が実行している。

また、それ以外にリフレッシュ委員会で季節のイベント、外出、外食等を検討したが、新型コロナウイルス

感染症の影響によりほとんどのイベントを縮小や中止の判断をした。

**⑤感染症対策について（総括）**

R2年2月中旬から引き続き感染症の注意勧告→ご家族への面会制限から面会中止の繰り返しへの対応を行った。特に職員への感染症に関する情報伝達や注意警告等はグループLINE

を使用し啓発を行った。更に厚労省の参考資料を基に新型コロナウイルス感染予防マニュアルを作成しその内容は、①入居者の方への配慮やケアについて②職員の日常生活や就労上の注意等をまとめ③感染症発生時の対応等、フローチャート作成を行い職員に周知した。

#### ⑥入居者の健康管理について

入居前には、嘱託医先に受診しご家族と医師が接見し、その後もご本人とご家族が医師からの

身体の状態上の説明を受け、安心して施設生活が送れるように医師と連携している。

施設内の健康管理は、月 4 回火曜日に嘱託医の往診がある。内服の変更や症状の変化があれば、ご家族へ随時連絡している。また、病状の増悪が懸念される場合や今後の療養の検討が必要な場合には、早期に医師からの説明を受けられるようにご家族に連絡を行い、今後の療養を医師とご家族と相談している。

#### ご家族との面談

ア) 入居者の方の状態が変化したとき

イ) 状態が悪化傾向にあり今後の療養が心配されるとき

ウ) ご家族からの相談があったとき

エ) 看取り期と嘱託医が診断されたとき

#### ⑦最期のお看取りのケアについて

最後まで施設で過ごされ、施設でのお看取りをさせていただいたのは 9 名の方であった。

ご本人が安楽に最期を全うされるように対処療法など自然な療養を選択されるご家族がほとんどであった。

施設でのお見取りが多くなることで、命の尊厳をより考えるためにお見取りについての職員研修会の内容は、前田医師と相談し検討を重ねている。



第1号議案

## 令和2年度事業報告

社会福祉法人 慈敬会

特別養護老人ホーム ヒューマン・ケアたかばの杜

## 1. 職員数、職員採用状況

令和3年3月31日付：職員数28名（前年同月数+0名）：正職員19名、パート職員10名  
 ＊産休育休1名 ＊こうしの杜との兼務者は除く

- ・男性10名 女性19名
- ・合志市在住者 14名
- ・退職者6名（介護職5名、調理1名、清掃1名）
- ・入職者5名（介護職3名、清掃2名） + 異動1名（こうしの杜から看護師1名）

<入所事業>

配置基準の職種（人数）	人数（兼務）	有資格（前年数）
施設長：1 本体との兼務可	(1)	社会福祉士 2名(2)
看護職：1	4	看護師（准含む） 4名(3)
介護職：10	12	介護福祉士 11名(10)
介護助手：0 基準なし	3	介護支援専門員 5名(2)
生活相談員：1	1	社会福祉主事 2名(2)
介護支援専門員：1	1	管理栄養士 1名(2)
管理栄養士：1 本体との兼務可	(1)	栄養士 2名(2) ユニットリーダー研修受講者 2名(2)
機能訓練指導員：1 本体との兼務可	(0)	認知症介護実践リーダー研修修了者 2名(1) 認知症ケア専門士 4名(1)
事務職：本体との兼務可	1 (0)	介護職員基礎研修修了者 1名(1) (介護福祉士資格以外)
調理員：本体との兼務可	4 (0)	
清掃：	2	
委託医（非常勤）	(1)	
計	28(3)名	

## 2. 入職、退職者状況

令和3年3月末時点で介護職15名、看護職4名、総数19名と配置基準を満たしているが、そのうち時間短縮パート希望や60歳以上の雇用者等、体力がない職員等が4名という状況で、依然として夜勤ができる人が不足している。職員の高齢化により、業務の工夫とケアのICTによる負担軽減策、コストの課題を抱えている。

## 3. 職員 福利厚生

- ・新規採用時の職員健康診断
- ・法定健康診断（年2回）
- ・インフルエンザ予防接種

#### 4. 期末賞与

日々の高齢者への感染予防対策に配慮した職員への慰労策、利益還元として、令和2年12月に商品券、マスクの配布（追記：令和3年5月に職員全員に慰労金を臨時支給）

#### 5. 入職者研修

- ・入職後3ヶ月以上経過した職員に、座学と演習の2日間の研修を行っている。

座学の内容は、施設理念、高齢者の権利擁護、接遇、認知症の理解、高齢者に関する医学的理解、栄養学、コミュニケーション技術、リスクマネジメント、看取りのケア、緊急時の対応、ケアプラン作成等を行っている。座学、演習は感染対策により消毒、換気、衝立を行い実施した。

#### 6. 施設委員会

以下の委員会を編成し、円滑な施設運営と入居者の方へのケアの向上に努めている

- ・研修記録委員会（月1回の施設内研修内容を考える ケアの質的向上）
- ・ケア改善委員会（日々のケアや業務改善を考える）
- ・リフレッシュ委員会（日々のレクリエーション・余暇活動・季節行事の充実を考える）
- ・リスクマネジメント委員会（危機管理 施設内のリスク回避や介護事故予防を考える）
- ・身体拘束適正委員会（高齢者の権利擁護を考える）

リスクマネジメント委員会との兼務

- ・保健衛生委員（衛生管理、感染症予防を考える）

R2年4月から新型コロナウイルスの情報収集を行い、そこからその都度、職員に情報提供と注意勧告を続けた。それをマニュアル化し3度改定を行った。

感染予防のための備品管理補充、施設内消毒

- ・環境美化委員会（施設内美化、環境整備、エコを考える）
- ・災害防災対策委員会（施設内の防災、地域災害時の支援活動を考える）

事業継続計画（BCP）作成

- ・広報委員（広報誌の作成、施設外への広報活動）
- ・栄養管理委員会（健康管理 栄養マネジメント 食の愉しみを考える）

各委員会は、少数人数のため会議室でお互いの距離を保ち、月1度の委員会を開催し業務を実行した。各委員会が企画する行事や研修会等は、通常に比べ縮小したり中止としたり、全国や熊本県下の感染状況や動向を留意しながらケアや業務を行った。

年月	施設運営設備管理	主な行事・余暇活動 * 地域交流	職員研修会 (内部)
R2年 4月	新型コロナウイルス予防対策 施設内消毒の徹底		・認知症の症状について 資料配布 ・入職者研修 (終日・2日間)
5月	食中毒予防月間	一時ご家族面会中止の時期あり	・感染症 (食中毒・ノロウイルス) 資料配布
6月	害虫駆除、草取り清掃 カルテ整理		・高齢者の権利擁護について ・身体拘束・不適切なケアを考える
7月	消防避難訓練 窓ガラス拭き	七夕飾り *竹迫観音祭り中止	・認知症について ・入浴介助について
8月		夕涼み花火 (19:00~) ミニ納涼祭	・
9月	消防設備立ち入り調査	敬老会・式典 (ご家族参加なし)	・ZOOM練習
10月	インフルエンザ予防接種		・記録と申し送りについて ・遅出業務について
11月		文化祭	・感染管理 (新型コロナウイルス)
12月	施設内外大掃除 害虫駆除 リモート面会開始	ゆず湯 クリスマス・忘年会 (ご家族参加なし)	
R3年 1月	防災訓練		
2月		節分イベント 雛飾りつけ	・リスクマネジメント (事故の分析と改善策について) ・R2年度委員会編成 ・入職者研修 (終日・2日間)
3月	次年度委員会計画立案		・R2年度活動報告

	備品在庫整理 消防設備点検	*たかばの初市中止	・R3年度活動計画 ・入職者研修(2日間)
備考	エレベーター点検1回/3ヶ月 運営推進会議なし	月1回:ユニット調理(一時中止) 介護相談員訪問中止(4月以降) ご近所喫茶中止(4月以降)	

## 7. 令和2年度 入居者ケア(活動)報告

### 1) 主な活動 \*は、地域交流内容

### 2) 入所ケア 活動報告詳細

#### ①食事サービスについて

##### 【給食に関する方針】

入居者様を食事づくりに参加できる機会を作って、残存機能を生かし、生きがいの場を設ける。安全・安心な料理の提供、また、地産地消をとりいれる。

その土地の食材や郷土料理をとりいれ、家庭的で高齢者になじみのある料理を提供する。

##### 【栄養量等の状況】

	エネルギー kcal	蛋白質 g	カルシウム mg	鉄分 mg	ビタミンC mg	塩 g
令和2年度の 栄養所要 量	1541	53.5	635	6.4	100	6.9
令和2年度 給与栄養 量	1706	61.1	662	8.6	122	9.8

(1) 利用者がくつろいで食事出来るような配慮及び対応  
なじみの人とテーブルを囲んで食べる。各自の湯のみを持参する。  
また、食器は陶器を使用して家庭的な雰囲気を作っている。

(2) 利用者の身体状態(咀嚼能力、健康状態等)に合わせた調理への配慮及び対応  
その都度栄養士に報告し、次の提供時に対応できるようにしている。  
カンファレンスにて報告、また、栄養士が食事場面を巡回し、確認して対応している。

(3) 食事が適温で食べられるような配慮及び対応  
 ユニットには、冷蔵庫・電子レンジ、IHコンロがあるので、  
 遅れて食べる人には対応している。各ユニットにてご飯を炊いている。  
 また、汁物は各ユニットで温めている。

(4) 利用者の身体状態に応じた食事のための自助具等の活用  
 個人用自助具は各自持参してもらっている。  
 麻痺や視覚障害がある人にはその人にあった陶器を使用している。

【食事形態】

令和3年3月1日現在

軟菜食	刻み食	やわらか食	極キザミ食	ミキサー食	ミキサーハーフ食	合計
11	3	0	3	6	4	27

(在籍入居者 27名)

【食費】

朝食：380円 昼食：500円 夕食：512円 1日：1,392円

②ケアカンファレンス

朝の引継ぎ後 25～15 分のカンファレンスを継続している。その内容はおひとりお一人についてのケアの方法や業務の見直し、事故の再発予防について等の検討を行いケアの統一を行っている。また、個別のケアの計画については、入居時とその後6ヶ月毎にケアプランカンファレンスを開催している。カンファレンスは、チームワークにおいても必要なことと認識し位置づけている。

今年度からは、感染対策として他同様に、お互いの距離に注意しながらカンファレンスを行っている。

③ケアプラン・機能訓練実施状況

ケアプランに基づき個別の機能訓練計画書を作成し実施している。通常であれば計画書の内容は、歩行訓練や移乗動作訓練に加え、生活に即した動作の習慣や食事の下ごしらえ、食事の準備や後片付け、掃除や洗濯物の整理など入居者間の交流を行いながらの機能訓練であるが、新型コロナウイルス感染対策により、入居者の方同士の距離や接触を少なくする目的で実施プランは個人での機能訓練が主な内容となった。

ケアプラン発表については、ご家族の参加はご遠慮いただき、後に書面で報告とした。また下半期には、オンライン会議によりご家族参加のもと実施した。

#### ④余暇活動について

日々の余暇活動については、個別のケアプランを基にその日のユニット担当者が実行している。また、それ以外にリフレッシュ委員会で季節のイベント、外出、外食等を検討したが、新型コロナウイルス感染症の影響によりほとんどのイベントを縮小や中止の判断をした。

#### ⑤感染症対策について（総括）

R2年2月中旬から引き続き感染症の注意勧告→ご家族への面会制限から面会中止の繰り返しの対応を行った。特に職員への感染症に関する情報伝達や注意警告等はグループLINEを使用し啓発を行った。更に厚労省の参考資料を基に新型コロナウイルス感染予防マニュアルを作成しその内容は、①入居者の方への配慮やケアについて②職員の日常生活や就労上の注意等をまとめ③感染症発生時の対応等、フローチャート作成を行い職員に周知した。

#### ⑥入居者の健康管理について

入居前には、嘱託医先に受診しご家族と医師が接見し、その後もご本人とご家族が医師からの心身上の説明を受け、安心して施設生活を送れるように医師と連携している。

施設内の健康管理は、月2回金曜日に嘱託医の往診がある。内服の変更や症状の変化があれば、ご家族へ随時連絡している。また、病状の増悪が懸念される場合や今後の療養の検討が必要な場合には、早期に医師からの説明を受けられるようにご家族に連絡を行い、今後の療養を医師とご家族と相談している。

#### ご家族との面談

- ア) 入居者の方の状態が変化したとき
- イ) 状態が悪化傾向にあり今後の療養が心配されるとき
- ウ) ご家族からの相談があったとき
- エ) 看取り期と嘱託医が診断されたとき

#### ⑦ご家族面会について

熊本県県下の新型コロナウイルス感染症の発生状況により、面会を制限したり中止したりを繰り返した。

下半期ではオンライン面会を行い、実施されたご家族は36件であった。

⑧施設でのお看取り状況について

最後まで施設で過ごされ、施設でのお看取りをさせていただいたのは3名の方であった。

ご家族には、嘱託医と面談し、状態説明を受けていただき安心して療養できるように配慮した。

また、お看取り時期と診断されてからは、通常面会中止であっても感染対策を行って面会をしていただいた。

ケアについてはケアプランに沿って看護と介護職で協力しながら、ご本人の身体の消耗を最小限に考え、表情や呼吸の観察を密に行い安心安楽に配慮した。



# 令和2年度通所介護事業報告

登録者数 … 15名 令和3年3月31日現在

入院中 … 1名

## 1. 介護度別利用回数状況

年 月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	延回数	実日数	稼働率
R2.4	12	9	18	24	34	20	4	121	22	28.9%
R2.5	18	8	8	18	28	11	3	94	21	23.5%
R2.6	18	9	9	24	43	35	15	153	22	36.6%
R2.7	18	9	9	27	48	36	15	162	23	37.0%
R2.8	16	9	8	24	41	34	5	137	21	34.3%
R2.9	18	7	9	27	49	27	11	148	21	37.0%
R2.10	18	8	18	9	58	22	15	148	22	35.4%
R2.11	15	18	15	8	51	8	17	132	21	33.0%
R2.12	18	16	17	16	50	12	21	150	22	35.8%
R3.1	14	10	16	11	27	12	9	99	20	26.0%
R3.2	14	8	16	12	25	12	8	95	20	25.0%
R3.3	17	8	18	14	18	10	12	97	23	22.0%
合 計	196	119	161	214	472	239	135	1536	258	33.7%

※稼働率 = 延回数 ÷ 定員19名 × 実日数

## 2. 利用者介護度 (R3.3.31現在)

介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計	各介護度×人数 要支援=0.375× 人数 平均介護度 2.3
人数	2	2	2	2	3	2	2	15	
介護度× 人数	0.75	0.75	2	4	9	8	10	34.5	

## 3. 利用者保険者 (R2.3.31現在)

保険者	合志市	熊本市	菊池市	大津町	阿蘇市	南阿蘇村	多良木町	合 計
人数	13	0	0	1	0	0	0	14

## 4. 利用者男女比・年齢 (R3.3.31現在)

※吉永英次様 51歳

男性	1	合計 15	男性平均年齢	51	全体平均年齢 68.2歳
女性	14		女性平均年齢	85.4	

年齢	70未満	71~75	76~80	81~85	86~90	91~95	96~100	合 計
男性	1	0	0	0	0	0	0	1
女性	0	1	3	3	3	2	2	14
合計	1	1	3	3	3	2	2	15

## 5. 曜日別利用者人数(R3.3.31現在)

曜日	月	火	水	木	金
人数	7名	9名	7名	7名	10名

登録者15名

週延べ人数40名

週平均8名

※ 入院中(2人) 自宅待機中(2人)

## 6. 活動状況

年 月	デイサービス屋外活動	デイサービス行事・趣味活動・生活リハビリ	施設行事・慰問
R2.. 4	桜花見(恵楓園ドライブ)	おやつ作り(パンケーキ) 映写会 誕生会	慰問中止
R 2. 5	つつじ見学中止	おやつ作り(パフェ) 映写会 誕生会	慰問中止
R 2. 6	あじさい見学(ドライブ)	映写会 誕生会 おやつ作り(クレープ) 梅シロップ作り	慰問中止
R 2. 7	外出中止	映写会 誕生会 おやつ作り(五平餅)	慰問中止
R 2. 8	ぶどう狩り(村上巨峰園)※貸し切り	デイサービス夏まつり(袋釣り・ストラックアウト・カキ氷・明石焼き) 誕生会	慰問中止
R 2. 9	外出中止	おやつ作り(おはぎ) 映写会 誕生会	敬老会 慰問中止
R 2. 10	コスモス見学ドライブ(旭志・ほたるの里)	デイ体力測定 映写会 誕生会 おやつ作り(かぼちゃ餅)	慰問中止
R 2. 11	菊人形展見学中止	おやつ作り(さつまいもトリュフ) デイサービス文化祭・利用者作品展 映写会 誕生会	慰問中止
R 3. 12	外出中止	デイサービス忘年会&クリスマス会 映写会 誕生会 おやつ作り(クリスマスケーキ)	忘年会、クリスマス会 慰問中止
R 3. 1	初詣(三ノ宮神社)中止	おやつ作り(チョコドーナツ) 映写会 誕生会	慰問中止
R 3. 2	植木市見学(農業公園)中止	おやつ作り(トリュフ) 映写会 誕生会	慰問中止
R 3. 3	桜の花見ドライブ (フジフィルム・ホンダ技研)	おやつ作り(桜もち) 映写会 誕生会	慰問中止

#### ・機能訓練

毎日、小集団での体操を実施し筋力維持を図っており脳トレーニングや手指を使った巧緻作業等で認知症予防を図っている。又、個別のニーズに応じた機能訓練を機能訓練士の計画の下、実施しておりそれ以外にも在宅生活に応じた生活リハビリ(洗濯たたみ、テーブル拭き、茶碗洗い、おやつ作り等)も取り入れている。

#### ・家族支援

利用者の生活状況、住環境のアセスメントを行い安全で快適に在宅での生活を継続できるようケアマネージャーや関連機関との情報共有を行い、相談、助言等の支援を行っている。

#### ・安全衛生

年間防災計画に基づき防火避難訓練、消火器、消火栓操作法訓練及び設備定期点検を実施している。

感染症予防対策の研修(特養と合同)

コロナウイルス対策として毎日の利用者手指消毒、テーブル消毒、利用時間内のウィロック消毒利用者帰宅後のフロア内のウィロック消毒を徹底し、デイスタッフの毎日の検温、体調チェックが見える所に掲示している。

## 令和2年度 居宅介護支援事業所事業報告（案）

### 1：運営方針

地域の状況を考慮し、地域の即した居宅介護支援を行う。

また、その家族の相談などに応じて社会資源を活用し、必要に応じた支援を行うことでできる限り在宅で、自立した生活が送れるように支援する。

- ・要介護者の重症化防止
- ・早期の認知症高齢者の在宅支援
- ・要支援者状態の悪化防止予防
- ・地域医療との連会
- ・ターミナルケアの充実のための在宅支援

### 2：事業計画

・利用者ならび地域からの相談を受けて、要介護・要支援認定の申請代行、取次ぎ

・認定後の介護保険サービスの利用支援

→居宅サービス計画書の作成、サービス導入や連絡調整、モニタリング給付管理業務など

・契約市町村から委託を受け、要介護認定調査を行う。

・地域包括支援センターから委託を受け、要支援者の予防介護プランを作成し、介護予防サービスの導入やサービス事業者との連絡調整を行う。

・地域で予定されている「地域ケア会議」に積極的に参加し、地域課題の抽出ならび課題解決につなげる

・主任介護支援専門員の研修に参加し、終了することで資格取得する。

・実地指導（7月予定）ケアプラン点検

### 3：支援状況

① コロナウイルス感染症拡大にて研修会の実施が難しい状況ではあったが主任介護支援専門員の研修には全日程参加することができ、無事に資格取得できた。

② 地域ケア会議にリモートで参加し、地域の方との支援内容の評価ならび助言を得ることができた。

③ 実地指導では特段の指摘はなかった。ケアプラン点検においては細かな部分での指導を受けた。

④ 下記に示すように、返戻や月遅れ分があるが平均して39件前後の支援を行う。（法定で示す上限を支援支援）

介護度別月別利用者

年月	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	支援 合計	介護 合計
R2.4	5	5	5	15	3	2	4	10	29
R2.5	5	4	5	18	4	5	6	9	38
R2.6	5	3	5	19	8	5	5	8	42
R2.7	5	3	5	17	6	5	5	8	38
R2.8	5	5	6	15	5	4	5	10	35
R2.9	5	4	7	16	5	3	5	9	36
R2.10	5	3	8	14	7	3	5	8	37
R2.11	4	3	8	14	5	4	4	8	37
R2.12	4	2	10	14	6	4	6	6	38
R3.1	4	2	10	11	8	4	6	6	39
R3.2	4	2	11	11	7	3	3	6	35
R3.3	4	3	11	12	7	5	3	7	38
平均	4.66	3.25	7.58	14.6	5.91	3.91	4.66	7.91	36.8